

C 4 赤ちゃんイメージと育児
島根大教育 猪野郁子

目的 赤ちゃんへのイメージや育児感に、独身時代あるいは出産前における「赤ちゃんに触れる、世話をやる」などの経験がどのように影響しているのかみようとしたり。又、赤ちゃん出産前と後でイメージがどのように変わるかみようとしたり。

方法 乳児健診に来院した生後1～12か月の乳児を持つ母親と女子学生を対象に、質問紙法により調査を実施した。

結果 (1)初産婦の60%にあたる者は、自分の子どもを出産するまでに赤ちゃんを抱いたりミルクを飲ませたり等、なんらかの形で赤ちゃんに触れた経験を持っている(経験群)。学生の場合は75%にあたる者がこうした経験を持っている。(2)初産婦の経験群は、経験のない群より、子育てを「むずかしい」と感じている。学生では両者間に差はみられない。母親と学生とでは学生の方がより「むずかしい」と思っている。(3)赤ちゃんのイメージについて、初産婦は子どもを持つ前と持った後とでは変化が大きい。特に、「手間がかかる」「よだれが出て汚い」などマイナスイメージは出産後小さくなり、反対に「愛らしい」「いとおしい」などプラスイメージは大きくなっている。(4)初産婦でも経験群より経験のない群の方がイメージに変化があり、プラスイメージが大きくなっている。(5)学生の場合、経験の有無によってはイメージに有意な差はみられない。(6)出産後の母親と学生では、「よだれを出して汚い」「よく寝る」「よく泣く」といった項目で両者間の差は大きく、学生の方が強く感じている。全般に、プラス・マイナスイメージとも学生の方が大きい。

本研究は、国政費校長の協力を得た。この場を借りて謝意を表します。